

文書名	栗山白記 No.
所蔵者 住所・氏名	九州大学文学部(国史)
撮影年月日	昭和56年 7月 14日
福岡県文化会館	

栗山自記

全

栗山自記
巻七
終

栗山自記

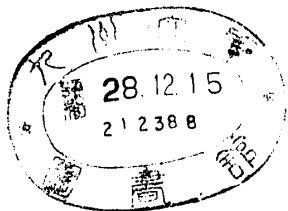
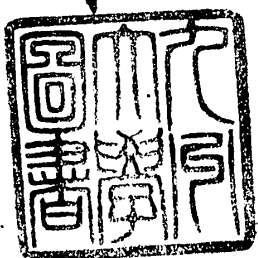
全

中

國史
2C
463

20

國史
2C
463



天文十一年栗山寺長徳寺改修
一永禄九年二月赤松下守別心合と許ん

と少寺合戦永禄十一年其日此寺合合戦と初合戦は手刻物合戦半合戦者合戦と十七合戦原合戦に

日日本原初合戦とて一様を要ん

と合戦の股と一様を要ん

と頭と取らぬ

一因洋懐易の事とて取らぬ

款大勝少く付かぬ

と因懐捕、是くし

様も何れも様も又抄者となりし御... 欽本難通...
之を之入首元御し一度見通し... 御... 抄...
は合決りの... 御... 御... 御...
運の... 御... 御... 御...
御... 御... 御... 御...
御... 御... 御... 御...
御... 御... 御... 御...

一物と千この果... 御... 御...
一海口と上... 御... 御...
射拂... 御... 御...
御... 御... 御... 御...

一六国様... 御... 御...
御... 御... 御... 御...
御... 御... 御... 御...

一六国様... 御... 御...
御... 御... 御... 御...
御... 御... 御... 御...

一六国様... 御... 御...
御... 御... 御... 御...
御... 御... 御... 御...

一六国様... 御... 御...
御... 御... 御... 御...
御... 御... 御... 御...



銀子より脇持家より銀子より... 首の... 様
の... 目... 師... 師... 師... 師...
... 辛... 方... け... 事...

大周様... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...

一家... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...

左... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...

合... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...

一... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...

大... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...
... 師... 師... 師... 師...

在室とてたし心無死し平幕吉則也然地を信るは

夫中と室より一編抄を授えより是を押伏無量と稱し

と標せし皇位より一箇列の漢の早かりしと大園様お

希道海へは後海利しり流るは天下一の地なるを

所感しと名し四國をとりて水府止る先と名し此の地は

諸多友の様なりと名し此の地は諸代未すくす此の地は

如くは此の地に如くは是て名して此の地は内と名し此の地は

は此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は

一六園様九園の自にて入るとは軍隊の如くは此の地は

此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は

此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は

此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は此の地は

一豊前國士を一回と稱し起り中と名し此の地は此の地は

者大石小ては運んて企居股の如くは此の地は此の地は

自虎... 身... 物... 新... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... の... 修... 兵... 修... 事... 一... の

惟... 上... 下... 兵... 修... 事... 一... の

操... 兵... 修... 事... 一... の

上... 下... 兵... 修... 事... 一... の

も... 人... 修... 事... 一... の

加... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

一... 接... 兵... 修... 事... 一... の

秋木元一忍及方洞五... 秋木元一忍及方洞五... 秋木元一忍及方洞五...
後合... 後合... 後合...

生... 生... 生...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

初合... 初合... 初合...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

備... 備... 備...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

一... 一... 一...
一川を能... 一川を能... 一川を能...

是れをまなれりては、
凡て日本國大納言様、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

一、
一、
一、

作る名をもてこれを後世に及ぶ軍用も為人のたぬはなす大款を
前より小款に換ひしをてとてはば長持はてとてあるの謀の計
あり世の人ぬ津糸はして抄をのり入る後序長中陣と所
信行の中

一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不

一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不

一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不

一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不
一豊足後守重原の合戦も大なる有はるはしとて足原の中不

軍に御してさきとさう半たかく懐入るご指腹とさう或時

大衆は江の浦より風合ハハとさうひ。よ。社家の名書

作道々大括是とさう物とす。半。是とさう連と今日

之をさうとさう。是とさう。是とさう。是とさう。是とさう。

はさうと換指腹の。是とさう。是とさう。是とさう。是とさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。はさうとさう。

事の事は、以て長政の所被り致仕、千挺大段の儀を以て、
 いたる、通に、以て、按て、若く、又、小、若、若、事、ハ、雜、如、物、等、の、儀、は、
 順、に、以て、之、の、大、儀、是、之、に、後、之、に、早、に、以て、之、を、以て、
 其、之、に、固、に、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 牙、動、解、の、儀、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 土、中、の、儀、目、に、看、た、れ、之、の、儀、を、以て、之、を、以て、
 し、上、に、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 之、を、入、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、と、以て、大、儀、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 一、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 形、の、儀、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 又、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、

一、六月、甲、午、日、に、其、の、儀、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 十、二、日、日、に、其、の、儀、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 其、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 大、儀、事、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、
 此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、

此、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、之、を、以て、

まじり御珠帳一 中堂とかいへる内門より又御珠帳の御珠帳と云ふ

といはれ其の御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳

よりといはれ其の御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

御珠帳の御珠帳の御珠帳といふ御珠帳の御珠帳の御珠帳

押巻云云の何の事と申す事... 時海に...

死すや... 死すや... 死すや...

其の... 其の... 其の...

腹... 腹... 腹...

天の外... 天の外... 天の外...

大即... 大即... 大即...

一... 一... 一...

九月... 九月... 九月...

合... 合... 合...

之... 之... 之...

之... 之... 之...

大... 大... 大...

一... 一... 一...

一... 一... 一...

古ふ義親してあるは、横力て常力被らば、世を亂るは、
一、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
二、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
三、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
四、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
五、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
六、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
七、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
八、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
九、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十一、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十二、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十三、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十四、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十五、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十六、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十七、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十八、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
十九、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、
二十、天下皆下、趙、魏の世界よ、乱の根、

一、或礼云三月始掃、
二、或礼云三月始掃、
三、或礼云三月始掃、
四、或礼云三月始掃、
五、或礼云三月始掃、
六、或礼云三月始掃、
七、或礼云三月始掃、
八、或礼云三月始掃、
九、或礼云三月始掃、
十、或礼云三月始掃、
十一、或礼云三月始掃、
十二、或礼云三月始掃、
十三、或礼云三月始掃、
十四、或礼云三月始掃、
十五、或礼云三月始掃、
十六、或礼云三月始掃、
十七、或礼云三月始掃、
十八、或礼云三月始掃、
十九、或礼云三月始掃、
二十、或礼云三月始掃、

書村志の多思上は此書録も大知ぬ
三下上条已之五十上上条録も然し
少いれぬぬ後之は三條し方條録と
此女ぬ一方便もなす
事々々々々々々々々々々々々々々々
とるていふたれん子ある一命と
と不着くも固くぬぬぬぬぬぬぬ
入ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
如水若ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
國の強動と大勢の家来流語は
左様の前記也ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
とぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

村史にも及ぶとる
為りともはは大略とす
か入りては自然即老中格と
作方ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
比るゆ前より有る何れぬぬぬぬぬ
忠云ふぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
右に後ありぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
一七二一年の二又挿叙ぬぬぬぬぬ
申すぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
大肥後之ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
中より村史前廻りぬぬぬぬぬぬぬ

多むる事能くもなれり上意に任後其志願事之精程下相
流し流家玉を別任事任事能事なる御禮上相御
多御事上意に任領地南敷御事なる事上意に任人任
相御事任事能事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

一 大任所 寛永十年三月末と云云 大御之家光云云
歳二十八 忠意様三十二歳大膳守三十一歳と云云

一 大任事子娘五人と云云 年三十四歳と云云 後八百五十一歳候迄
可至以兵庫大膳守年三十四歳大任正田伯耆味年三十四

一 西の凡そためて右任所任事能事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

之れに流前國と云云 叔之吉好流事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

之れに流前國と云云 叔之吉好流事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

の武切と美世と云云 上意に任領地南敷御事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

一 大任所家老よりて主人と云云 上意に任領地南敷御事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

一 大任所家老よりて主人と云云 上意に任領地南敷御事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

一 大任所家老よりて主人と云云 上意に任領地南敷御事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

一 大任所家老よりて主人と云云 上意に任領地南敷御事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

一 大任所家老よりて主人と云云 上意に任領地南敷御事なる事上意に任領地南敷御事なる事
上意に任事なる事上意に任領地南敷御事なる事

大徳之口男の徳傳りも、其の口布の者も、早世は五女を養
育^{後、屋上清}す。其の口布の者も、早世は五女を養

一、大徳の天正十九年年におき、寛永九年、年二歳、件の六月

神滅亡は子に救あり、痛男、大徳と云、大徳と云、南朝、下、男

を吉次良人候とて、國年、入、其、草、世、三、女、の、後、良、人、者、

曰、中、國、毛、別、及、内、中、一、條、と、申、す、の、主、次、を、玉、之、母、と、同、名、

作、と、大、徳、と、退、て、後、忠、之、と、興、專、寺、の、願、救、村、に、後、寺、と、わ、

是、大、徳、村、の、事、と、も、不、知、也、伯耆、津、、一、政、伯耆、津、、子、の、母、と、曰、

多、原、の、娘、と、候、と、か、一、箇、の、後、と、も、一、政、伯耆、津、、一、政、伯耆、津、、

一、馬、の、事、也、大、徳、傳、り、年、と、傳、り、江、戶、村、に、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

よ、り、一、列、條、と、も、と、是、に、右、傳、り、親、を、も、る、事、と、の、一、と、名、を、い、は、

れ、う、り、忠、之、と、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

一、山、河、の、事、也、大、徳、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

也、一、政、伯耆、津、、

一、馬、の、事、也、大、徳、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

也、一、政、伯耆、津、、

一、馬、の、事、也、大、徳、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

也、一、政、伯耆、津、、

一、馬、の、事、也、大、徳、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

也、一、政、伯耆、津、、

一、馬、の、事、也、大、徳、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

也、一、政、伯耆、津、、

一、馬、の、事、也、大、徳、の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

の、事、と、も、一、政、伯耆、津、、

右条の如く海沿の村は通名に之

一 系教の如く其の末者平布の長袋の略の忠之と大分は其服の用す
て富貴を乞ふと云はれ奉事の後忠之と云通して其族の月名を
大文字を金とすよのうと云はれ奉事に大袋の用をせよと云く
をてと云はれ月祈裏へて大袋所へ月名を入はる者をも

海沿の如く五果を以て也

一 忠之の海沿長袋の用を以て奉事の後忠之と云通して其族の月名を
大文字を金とすよのうと云はれ奉事に大袋の用をせよと云く
をてと云はれ月祈裏へて大袋所へ月名を入はる者をも
海沿の如く五果を以て也
一 忠之の海沿長袋の用を以て奉事の後忠之と云通して其族の月名を
大文字を金とすよのうと云はれ奉事に大袋の用をせよと云く
をてと云はれ月祈裏へて大袋所へ月名を入はる者をも
海沿の如く五果を以て也

一 忠之の海沿長袋の用を以て奉事の後忠之と云通して其族の月名を
大文字を金とすよのうと云はれ奉事に大袋の用をせよと云く
をてと云はれ月祈裏へて大袋所へ月名を入はる者をも
海沿の如く五果を以て也
一 忠之の海沿長袋の用を以て奉事の後忠之と云通して其族の月名を
大文字を金とすよのうと云はれ奉事に大袋の用をせよと云く
をてと云はれ月祈裏へて大袋所へ月名を入はる者をも
海沿の如く五果を以て也
一 忠之の海沿長袋の用を以て奉事の後忠之と云通して其族の月名を
大文字を金とすよのうと云はれ奉事に大袋の用をせよと云く
をてと云はれ月祈裏へて大袋所へ月名を入はる者をも
海沿の如く五果を以て也

史 2C 463

五十七條の如く奉事

